

# もっと 知りたい、 なごやのまちづくり

第一回 報告レポート

《講師》

青空ルネサンス

篠元貴之さん・後藤千丈さん

Instagram



屋上。それは街のいたるところにあるけど、非日常的で不思議な空間。身近にいた知らない人同士が出会い、青空の下で新しい風が吹き込む交流の場。日常と非日常が混ざり合う屋上の新しい使い方と、その時見えてくる「屋上 × 名古屋」の可能性をお話いただきました！

## 青空ルネサンスって？

### 屋上を活かした、新しい未利用地活用の形

青空ルネサンスとは、使われていない未利用地としての屋上にポケットパークを作り、利活用するプロジェクト。屋上利用を活性化して、屋上から屋上へ手を振る光景を、名古屋の日常にできないかなと考えているそうです。



講師のお二人は、「青空ルネサンス」を共同で運営している **篠元 貴之（しのもと たかゆき）**さんと **後藤 千丈（ごとう ちひろ）**さん。篠元さんは内装の空間設計などを行う設計事務所を、後藤さんは建設や外装工事を行う会社や福祉事業の会社など複数の事業を営まれています。「青空ルネサンス」のプロジェクトは、すでに開催回数10回を超え、名古屋各地のビルや駐車場と連携しながら、活動を広げています。しかし、お二人とも個人としてこのプロジェクトを運営しており、会社の事業や利益のために行っているのではないとのこと。「じゃあどうやって始まったの？」「どう広がっていったの？」そんな疑問にこたえるお話しをしていただきました。

## 活動はどう始まった？

### 「名古屋」には魅力がないのか？

「名古屋へ遊びに来た人をどこに連れていきますか？」講師の問いに対して、参加者からは「名古屋城」「大須観音」など様々な回答がでました。しかしある程度出尽くすと、みんな「うーん」と悩んでしまいます。実際に名古屋市自らが行ったアンケート調査にて、『日本の主要8都市の中で名古屋は最も魅力に欠けるまちである』という結果が出ていることを教えていただきました。

そんな由々しき事態にも、お二人は「これって伸びしろなんじゃない？」ととらえて活動しているそう。「特徴が少ないなら、特徴を作れる！」という、とってもポジティブな考えなんです！

第一回 10月5日（土）13:30～  
名古屋の未来は屋上にあり！？



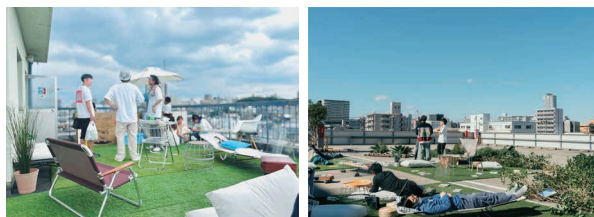
### 「名古屋といえば、屋上だよな」そんな未来を目指して

「台湾の夜市」「福岡の屋台」、そうしたイメージは観光用に作られたのではなく、地元の人たちの日常の延長線ではないか。であれば、屋上をみんなで普段づかいしていくことで、名古屋の屋上もそんなふうにならないだろうか。そうした想いからこの活動は生まれたんだそうです。

## どう広がっていった？

### 頭の中のイメージを視覚化することの重要性

「言葉だけでは伝わりませんよね」とお二人が見せてくれたのは青空ルネサンスのプロモーション動画。1分程度の短い動画ながら、青空の下で本を読んだり、おしゃべりをしたりする様子に、誰もが「楽しそう！」「行ってみたい！」と感ずるような魅力的な映像です。



「この映像は、こうあって欲しいというビジョンを共有するためにパイロット版として開催した際に撮影したものです。」とのこと。

なるほど、これはイベント開催後の記録映像ではなく、屋上を借りたり、協力者を集めるために、お二人の理想のイメージを具現化させたものだったんですね。この映像を見たら、説明がなくとも「うちの屋上でもやってほしい！」という方が続々と現れそうな気がします。

他にも「宣言する」「伝達する」など、周囲の共感を得ながら活動を広げていくための大事なポイントをたくさんお話いただきました。

新たにまちづくり活動を始めようと思っている方にはもちろん、すでに活動を行われている方にとっても参考になる話や、自分も取り入れたいと感じる工夫がたくさんあったのではないのでしょうか。



## たくさん質問がありました！

ふせんで質問を募集したところ、本当にたくさんの質問をいただきました。また、直接の質問も時間の許す限り受け付けました。みなさま積極的なご参加ありがとうございました。当日の質疑応答の一部を抜粋してご紹介します。

### Q. なぜ名古屋で屋上なんですか？

名古屋は200万人を超える都市だから、**ビル群がたくさんある**んですよね。実際に伏見のまちを歩いていると、使っていない屋上が多いと感じます。逆に経済規模の小さい地方都市では、ビル群がないので屋上も少なくなってしまう。また、屋上は不動産価値がついていないから借りやすいということもあります。価値のなかった場所に価値が生まれる。すごく可能性があると感じませんか。

あと、人をもっと高いところに持っていきたいなという思いもあります。中高時代から名古屋の地下街がすごく発達しているのを目の当たりにして、**このまちは人が潜ってしまうんだ**と感じていました。人の活動が(地上では)見えなくなってしまうのです。さらに言えば、名古屋は濃尾平野があって、まちがフラットなので、あまり先の方まで見通せない。対照的に、東京は渋谷の谷、上野の山など、まちに起伏があって、歩いていると前方に人の列が見えたりする。**人の活動を表出させる**というか、見えるところに持ってきた方が絶対いいだろうなと思っていて、それが屋上なら可能になるんです。

### Q. 複数のビルで同時開催の予定は？

これはまさに一番最初に立てた目標でもあるぐらい、僕たちが昔から言ってきたことですね。でもまだ実現はしてないんですよ。さっきも言ったように、屋上は名古屋の観光資源になりうると思っていて、そのためにも複数の屋上を介して、屋上から屋上に手を振り合う光景が見たいと思っています。

### こんなエピソードもありました！

『それほど高さのない立体駐車場の屋上で開催した際、近隣の団地やマンションのベランダから開催しているのを見つけてくれた人が、「何をやっているんだろう!？」と訪れてくれたことがありました。さらには「私も楽器ができるので次回は演奏させてください!」と輪が広がることもありました。』

みんなに見える形で開催することの大切さと、高い場所で人がつながる不思議な面白さを感じるエピソードでした！

## ギャラリー gallery



講師のお二人、ご参加いただいたみなさま、ありがとうございました。

第二回、第三回へのご参加もお待ちしております！

本レポートを含む、令和6年度まちづくりびと講座「もっと知りたい、なごやのまちづくり」のレポートは名古屋都市センター HP にて掲載・更新予定です。右記二次元コードからご覧ください。

令和6年度まちづくりびと講座「もっと知りたい、なごやのまちづくり」今後のレポートはこちらから！

